

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をととして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



「平成29年度あわら病院納涼祭」開催

あわら病院互助会 内川 厳志

9月7日(木)、当院に勤務している職員・家族の親睦を図る事を目的に「平成29年度あわら病院納涼祭」を開催しました。7月頃から総勢20名以上の職員が集まり「納涼祭実行委員会」を立ち上げ、開催に向けて準備を進めてまいりました。

納涼祭では、「焼き鳥」「フランクフルト」「いかバター焼き」など祭りならではの食べ物や、「スーパーボールすくい」「ミニボウリング」など子供も楽しめる屋台のゲームを行いました。

本来は、天気良ければ職員駐車場のスペースを使って、やぐらを組み、提灯をつけるなど祭りらしく飾りつけをするのですが、当日はあいにくの雨であり、室内で開催する事になりました。それでも多くの職員・家族の方々が来場し、親子で一緒に屋台ゲームを楽しみ、家族みんなで焼き鳥をほおばり、職員同士でなごやかに談笑するなど、みなさんとてもいい笑顔で過ごしていました。

あわら病院は、これからも職員・家族を含めた「多くの人の笑顔のために」を目標に努めていきたいと思ひます。

後発医薬品について



薬剤科長
杉山 喜久

後発医薬品(ジェネリック医薬品)とは、他の医薬品メーカーが、そのお薬の特許期間が終了した後に、国の承認を得て、新薬(先発医薬品)と同じ有効成分で効能効果、用法、用量が原則同じものとして販売されたお薬です。ただし違ってもよいところ、例えばお薬の形や色・味、添加物などは、各メーカーで工夫できます。したがって当院では、高齢者が多く入院されていることや、医療安全の面からOD錠といった徐放製剤や服用しやすい小さな錠剤、錠剤自身にお薬の名前が印字されているものなど、飲みやすさや使用感の良さといったことつまり、医療過誤の防止や調剤上の工夫が後発医薬品として望まれます。また、最近ではバイオシミラーとかオーソライズジェネリックといった言葉が出てきています。

バイオシミラーとは、簡単に言えば「バイオ医薬品の後発医薬品」を意味します。バイオ医薬品とは、遺伝子

工学を応用し、タンパク質、ウイルス、バクテリアなどの生物によって生産される物質に由来したお薬になります。たとえば糖尿病で用いられるインスリン製剤があり当院でも採用されております。オーソライズジェネリックも簡単にいうと「先発医薬品と全く同じ医薬品を後発医薬品として販売したもの」、先発医薬品のメーカーが後発医薬品のメーカーに特許を与え添加物なども含め全く同一のものをいいます。

厚生労働省は、「後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ」を策定し取り組みが進められ、「平成32年9月までに後発医薬品の使用割合を80%とし、できる限り早期に達成できるよう、更なる使用促進策を検討する。」と定められました。当院の後発医薬品の品目比率は約40%、数量シェアは約90%であり、厚生労働省の目標設定はクリアされています。このように後発医薬品の種類は、日々進化しており患者負担の軽減や医療保険財政の改善に努めながら適切な後発医薬品を選択しています。



血液腫瘍・がん医療

血液・腫瘍内科医長 大槻 希美

当院では悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ球性白血病などの悪性疾患、骨髄増殖性疾患、その他血液疾患に対応しております。急性白血病に関しては対応可能な施設と連携しており、速やかに紹介させていただいています。

当院には無菌室が2室あり、無菌管理が必要となる化学療法も実施しております。治療中の突然の発熱を含む合併症などにも対応しております。

また、病気そのものが落ち着いていて経過観察中であるものの通院が困難な方には訪問看護・診療も

行っています。当院の訪問看護ステーションアイリスと連携し患者さんの在宅療養をサポートしています。

当院では緩和ケアにも尽力しており初期治療とともに緩和ケアを並行して実施しています。終末期の緩和ケアももちろん行っており、限られた時間をよりよくすごせるようサポートしています。前年改装された特別室での治療・療養も可能です。療養の点におきましてはご家族と大切な時間をすごすことも可能となっております。詳細につきましては当院にお問い合わせください。





地域医療連携施設のご紹介

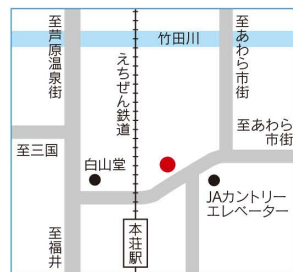


あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

医療法人 健成会 坂井内科クリニック



当クリニックは開院して25年になりました。この間、地域の「かかりつけ医」として外来診療だけでなく、訪問診療や訪問看護などの在宅医療にも積極的に取り組んできました。在宅医療では患者さんの急な病状変化に対応するため、入院や検査設備の整った後方支援病院が欠かせません。また医療度の高い患者さんを介護する家族の休息、息抜きのためのレスパイト入院先も必要です。この2点を備えたあわら病院は当クリニックにとって在宅医療を継続するための必須のパートナーとなっております。当院は今後も地域包括ケアシステムの一員として、高齢者が在宅でも安心して療養生活ができるよう、あわら病院と連携し地域の皆さんをサポートしていきます。



医療法人 健成会 坂井内科クリニック

〒910-4137 福井県あわら市中番17-18
TEL (0776) 77-1070

診療時間	月	火	水	木	金	土	休診日
午前(8:30~12:30)	○	○	○	○	○	○	日曜日 祝日
午後(14:30~18:30)	○	○	○	×	○	×	木曜日午後 土曜日午後

私の2年間の訪問看護を振り返って

訪問看護ステーションアイリス 訪問看護師 嶋 真紀

訪問看護ステーションアイリスの開業から2年が経ち、これまで多くの人たちとの出会いがありました。当初、訪問看護経験のない私にとって、利用者の方が「顔見知り」というだけで訪問時の緊張が和らぎました。その方は、私が病棟勤務をしていた頃から入退院を繰り返されていた方とその奥さんです。ご本人は「自宅で過ごしたい」と強く望んでおられ、ご家族はその意思を最期まで支え続けられました。病状の進行に伴い、入院期間が長引き、在宅生活が難しい状態になっても、たとえ数日間でも自宅で過ごす事を生きがいにされていました。夫婦2人暮らしの中で、奥さんは一生懸命介護され、笑顔絶やされませんでした。近所に住む息子さん夫婦は、お父さんへは病状の心配を、お母さんへは介護負担の心配をしながら両親を支えておられまし

た。旅立ちの前日には、息子さんと大好きなお酒を楽しみ、自宅ならではの家族との時間を過ごされたそうです。数日後、奥さんが事務所に来られ「主人がこんなにも長く家で過ごせ、私が介護が続けられたのは看護師さんたちのおかげです。」と、いつもの優しい笑顔で涙ながらに言って下さいました。この時私は、「家」で過ごす事でしか味わえない時間を支えるのは、私たち訪問看護師の大切な役割である事を学ばせて頂きました。

これからも「自宅で過ごせてよかった」と、ご本人・ご家族に思ってもらえる看護の継続に努めて行きたいと考えています。



外 来 担 当 医 表

(平成29年10月2日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総 合	内 科	津谷 寛	鈴木 友輔	大槻 希美	見附 保彦	片岡 達宏
	小 児 科	大坂 陽子 *	川満 徹 *	大坂 陽子 *	湯浅 光織 *	川満 徹 *
専 門	リ ウ マ チ			津谷 寛	津谷 寛	
	血 液 ・ 腫 瘍			浦崎 芳正 *	大槻 希美 (第2・4)	
	痛 風				津谷 寛 *	
	生 活 習 慣 病			鈴木 友輔 (第1・3)		
	老 年			桐場 千代 (第2・4・5)		栗田 敦
	神 経			林 浩嗣 (第1・3・5)		
	循 環 器	見附 保彦	見附 保彦			
	外 科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整 形 外 科	奥 規博				
	眼 科				吉岡 達也 *	
	皮 膚 科		若原 真美			若原 真美
	地 域 ケ ア	鈴木 友輔				
	禁 煙 外 来	見附 保彦	見附 保彦			

● 受付時間8:30～11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診察 ● 休診日／土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日・金曜日の午前中(9:00～11:00)です。

※神経内科の診察は、第1・3・5水曜日(8:30～11:30)です。

※禁煙外来の診察は、月曜日(8:30～11:30)・火曜日(10:00～12:30)です。

栄養管理室便り

栄養管理室 主任栄養士 内川 厳志

10月を迎え、夏の食中毒も落ち着いてきたでしょうか。しかし、次に待ち構えているのは冬場にピークを迎える「ノロウイルス」です。

当院では、食中毒予防対策として、加熱調理をした料理は75℃、1分以上を保っていることを確認し、2枚貝等ノロウイルス汚染のおそれのある食品の場合は85～90℃で90秒以上加熱するようにしています(大量調理施設衛生管理マニュアルより抜粋)。

また、ノロウイルス食中毒の発生しやすい10月～3月の期間はノロウイルスの検便検査を毎月行い、出勤時や調理業務開始前の手洗いの徹底、スタッフ自身だけではなく家族の体調も確認するなど、調理に関わるスタッフの衛生管理に努めています。

栄養管理室では、これからも患者さんの食事を「美味しく」かつ「安全」にお出しするよう努めていきたいと思ひます。



独立行政法人 国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1 TEL.0776-79-1211(代表) FAX.0776-79-1249
 〈地域医療連携室〉 TEL.0776-79-1212内線(785) FAX.0776-79-1261
 URL <http://www.awara-hosp.jp/>

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液・腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
 老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科

【病床数】172床

【教 育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(5km)

- ①京福バス(北潟花菖蒲園行き、あわら病院前下車)
- ②乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]

JR北陸本線芦原温泉駅より(10km)

- ①京福バス(あわら湯の町駅で乗換)
- ②乗合タクシー(デマンド交通) [事前予約が必要]

※出発時間は、受付に備え付けの時刻表、
 またはホームページ(交通案内)をご覧ください。